

-1-

ACCESSION NUMBER
TITLE
PATENT APPLICANT
INVENTORS

PATENT NUMBER
APPLICATION DETAILS
SOURCE

INT'L PATENT CLASS
JAPANESE PATENT CLASS
JAPIO CLASS

FIXED KEYWORD CLASS

ABSTRACT

79-056847
MEDIUM FOR THERMO TRANSFER RECORDING
(2000100) CANON INC
HARUTA, MASAHIRO; NISHIMURA, YUKIO; TAKATORI,
YASUSHI; NISHIDE, KATSUHIKO
79.05.08 J54056847, JP 54-56847
77.10.14 77JP-123349, 52-123349
79.07.05 SECT. E, SECTION NO. 121; VOL. 3, NO. 78,
PG. 110.
B41M-005/26
103K3; 116F3
29.1 (PRECISION INSTRUMENTS--Photography &
Cinematography); 14.2 (ORGANIC CHEMISTRY--High
Polymer Molecular Compounds); 29.4 (PRECISION
INSTRUMENTS--Business Machines)
R002 (LASERS); R042 (CHEMISTRY--Hydrophilic
Plastics); R125 (CHEMISTRY--Polycarbonate Resins)
PURPOSE: To enable good quality recording to be
performed with good transfer efficiency and provide
the medium having durability suitable for continuous
use by holding solid ink showing thermoplasticity in
a multiplicity of through-holes provided in the
carrier.
CONSTITUTION: A substrate of about 60 to 400 mesh
having cylindrical form pores of preferably less than
about 100.mu. in sectional diameter and having heat
resistance and flexibility is formed in sleeve form
or endless belt form. The solid ink which is composed
of the composition containing waxlike substance or
thermoplastic resin and coloring agents and exhibits
thermoplasticity within a temperature range of 40 to
200 Deg.C, preferably 40 to 160 Deg.C is filled in
the pores of the substrate while it is in a softened
or molten state. This thermo transfer recording
medium 3 and the medium to be transferred 4 are
superposed and heat information 5 such as laser light
source is applied from the medium 3 side, then the
heat-sensitive solid ink 6 is transferred to the
positions corresponding to the information 5

日本国特許庁(JP)
公開特許公報 (A)

特許出願公開

昭54-56847

5Int. Cl.² —
B 41 M 5/26

識別記号 62日本分類
103 K 3
116 F 3

庁内整理番号 43公開 昭和54年(1979)5月8日
6609-211

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 6 頁)

54熱転写記録用媒体

出願 昭52-123349
出願 昭52(1977)10月14日
発明者 春田昌宏
船橋市宮本4-18-8、パール
マンション203
同 西村征生
相模原市鶴の森350-2、リリ

エンハイムC-407
発明者 鷹取靖
町田市本町田2424-1 町田木
曾住宅ホ-12-404
同 西出勝彦
横浜市旭区中沢町56-516
意出願人 キヤノン株式会社
東京都大田区下丸子3-30-2
代理人 弁理士 丸島儀一

明 細 書

1 発明の名称

熱転写記録用媒体

2 特許請求の範囲

- (1) 多数の貫通孔を有する担体と前記貫通孔中に保持された熱転写性を示す図形インクとから成ることを特徴とする熱転写記録用媒体。
- (2) 貫通孔が円筒形状をなす特許請求の範囲第1項記載の熱転写記録用媒体。
- (3) 担体が図板体形状或いは無層帯状をなす特許請求の範囲第1項記載の熱転写記録用媒体。
- (4) 担体が耐熱性材料により構成されている特許請求の範囲第1項記載の熱転写記録用媒体。
- (5) 担体が可塑性を示す特許請求の範囲第1項記載の熱転写記録用媒体。
- (6) 図形インクが、ろう状物質と熱可塑性樹脂の

何れか一方、又は両方と色料を含む組成物から成る特許請求の範囲第1項記載の熱転写記録用媒体。

(7) 図形インクが、40℃乃至200℃の温度範囲で熱転写性を示すものである特許請求の範囲第1項記載の熱転写記録用媒体。

3. 発明の利点を説明

本発明は、熱転写方式において用いる転写媒体に関する。更詳しくは、熱転写記録用媒体組成の改良に関する。多種多様な記録方式が広く実用に使われている現在、中でもカーボンコピーを利用した、所謂、プレーン・ペーパー複写機が市場において急激な成長を遂げている事実が示すように、用紙品たる記録用紙として、特異性を使用せず、普通紙に転写記録をなすものの記録方式が採られるのは、用紙コスト、操作性、記録の

1826

リライアンス、公害等を考へる観点よりして、時代の趨勢であると言える。斯かる記録方式にあつて、例えば、電子写真方式、静電印刷方式を利用した装置は装置を簡便を必要とし、大量化、又、高コスト化するのを避け得ないといふ欠点があり、例えば車上電算機に組み込むための簡易なプリンター等として応用するには限界がある。他方、装置的には、比較的簡易なものとして、インクリゲンの上から活字ブランク、ペンマー、ワイヤードット等で画像を与えて、用紙に印字する、所謂、インパクト方式の記録装置が採用されているのも事実であるが、これ等共通する欠点は、印字記録時の騒音が大きい事、ノコリ的な騒動部が多い為、印字スピードが上げられない上、部品の摩耗等による故障が多く、メンテナンスが難かしい事、等である。中では比較的欠点が少ないとされている

インクを前記所定の文字又は図形の形に局部的に加熱して流動性を与え、前記記録紙に印字する機構を有する事を特徴とする感熱インクを印字する印刷機であると理解され、確かに特許紙を用いない簡易型の熱転写式印刷機を提供した点、注目すべきものではあるが、斯かる記録方式においてはインクキャリアを介して熱能が付与される為、インク層への熱伝達を良くして印刷で無い、即ち良品量の記録をなす為には、インクキャリアへのインクの塗布の厚みは極めて厚くする事、更にインクキャリアそれ自体が非常に厚い膜でなければならぬ事等、かなり厳しい条件の制約を受けるものであり、その点不利である。

又、インクキャリアが非常に厚い膜である場合には、その機械的強度が低く、使用耐久性に乏しいといふ不利もある。

ワイヤードットインパクト方式の装置としても、大抵電熱石を多数内蔵する為、インク層をバクテリア化する事が困難な上、電熱石を、流動性を有する為、大電力を消費するという問題を生ずる。何れにしろ、印字精度が高い場合には、インクインクを頻りに交換するわずらわしさがあり、又、反復使用のできる厚手のカーブを使用すると、印字品質が悪く劣化するといふ不利がある。又、一方では斯かるインパクト方式の欠点を除く、所謂、熱転写記録方式も幾つか提案されている。その一例が特公昭49-26245号公報に開示されている。斯かる技術思想を要約すると、略々、前記においては図相にあり、加熱によつて可逆的に利用されるか流動性を持つ如き印刷用感熱インクを記録紙に印字する印刷機であり、所定の文字又は図形を発生する如く構成された印刷装置が前記装置

本発明においては斯かる技術に鑑み、上述の如き熱転写記録方式における転写媒体の改良をなさんとするものであり、第1に、転写効率高く、且、前記の記録をなすことのできる熱転写記録用媒体を提供することを目的とする。第2には、連続使用に達した耐久性能のある熱転写記録用媒体を提供することも目的である。上記の目的を達成する本発明とは、要するに、多数の貫通孔を有する円体と前記貫通孔中に保持された熱転写性を示す図形インクとから成ることを特徴とする熱転写記録用媒体である。以下、本発明をより明確ならしめるため、図面を参照しつつ詳細に説明する。

第1図に、本発明熱転写記録用媒体の一構成例を示す。第1図(a)はその一部を示す平面図、第1図(b)は同側断面図である。図において、1はステンレス、鋼、アルミウム等の金属板、或いは

ポリオン、アトロン、アフロシ、アクリル樹脂、ポリカーボネート、ポリイミド、フェノール樹脂等合成樹脂フィルムからなる基板であり、中でも耐熱性及び可塑性のあるものが好適である。又その厚さは約10μから数mmのものを使用可能である。上記基板1には、円筒状の貫通空孔3が多数穿設されており、所定の空孔3中には、加熱により軟化又は溶解する樹脂においては固相にある感熱図形インクが充填されている。第1図に示した貫通孔の断面形状は円形状であるが、本発明においては円形状に限らず、矩形状、橢円状、キョウ状、又はこれ等の組み合わせによる形状であっても良い。本発明に係る転写記録においては、前記貫通孔の各々が形成されるべき領域の各領域に相当する。中でも、使用上好適な貫通孔は、断面径約100μ以下の円筒状空孔である。

の軟化剤は更に熱可塑性樹脂とから組成されたものである。ろう性物質としては蜜ロウや植物油もしくは植物油等の油酸類が使用できるが、例えば、マイクロクリスタリンワックス、カルナウバワックス、水酸化ナトリウムワックス等のワックス類、トリスチレン、ステアリン酸、パルミチン酸、ベヘン酸の如き、高級脂肪酸とその金属塩、その他、ステアリン酸モノグリセロール、ベラフィン、ポリエチレングリコール、尿素、ペンタリド、アセトアミドペンタリド、アゾール、フェニル、ジメチルビスフェノールA等が更に具体的に挙げられる。熱可塑性樹脂としては、ポリ塩化ビニル、ポリ塩化ビニリデン、ポリビニルアルコール、ポリビニルブタール、ポリビニルアクリル、ポリビニルアセテート、ポリカーボネート、ポリスチレン、タマロン樹脂、塩化ビニルとア

第1図に示した熱転写記録用部体の図形インクのキャリアは基板に貫通孔を多数穿設したものであるが、その際、メッシュ状基体を使用することもできる。例えば、ステンレスメッシュの組織成いは耐熱性のある合金組織等を用いることによる可塑性の網であり、そのメッシュ数は60から400メッシュ程度である。このような網を使用する場合平織、あや織、又はしずす織による網の何れでも良く、更に、それ等の網を加圧変形させて使用に供しても良い。

以上、説明した図形インクのキャリア（担体）は第2図に示す如く、スリーブ状に構成しても良く、又、第3図に示す如く細管状に構成しても良い。その時、前記キャリアの基材が可塑性を示すことは取扱い上好都合である。本発明で使用する感熱図形インクは染料、顔料等の色剤と、ろう性物質

と、フェニルエステルとの共重合体等が使用できる。色剤としては染料、顔料の他、加熱された後着色する成分を使用することができる。

例えば、長鎖脂肪酸塩（たとえばステアリン酸第3級、トリステアリン酸第3級）と、フェノール類（キシレン類、没食子酸、カルメルアンキニウム）又、有機貴金属塩（ベヘン酸銀、ステアリン酸銀）と芳香族有機還元剤（プロトカチオン、ヘイドロキノン）、又、トリスチルバイオレフトラクトン等のラクトン類とフェノール類（ビスフェノールA、フェノール樹脂）又、レゾルシンとニトロ化合物、又、テトラゾリウム塩と還元剤と塩基などを例とする多成分系感熱発色剤、尿素誘導体などのアミン発生剤とPH指示薬又、アミン発生剤とジアゾ化合物とカブラー、又、置換ベンゼンジアゾメタン誘導体と多価フェノ

ーハとホトロン化合物、アミン化合物とフッ化炭素など、ある温度になると熱分解が急激におこり、その熱分解物と発色反応をおこす物質の組み合わせによる熱分解反応成分系、インドール誘導体ビロロン誘導体、置換アミノジフェニル炭素の重合異性体など単独で熱により発色する単独発色成分などがあげられる。

以上の成分が熱時反応され、それが酸化或いは溶融状態にある間に、前述のキャリア中の空孔中に発色、浸漬等の手法により充填される。斯かる感熱形インクは、加熱源としてターマール・ヘッドを使用する際、ヘッドの加熱に充分応答できるような約40℃乃至300℃、特に好ましくは約40℃乃至100℃の温度範囲で熱感性を示すよう予め、その組成比を規定しておくことが望ましい。

本発明に係る熱板写記録に關しては、情報源とし

ての熱が、感熱形インクに対して直接印加される為情報伝達の効率が良く、感熱形インクの転写を適宜に行なうことができる。又それに要する熱量も従来の方式に較べて少なくて済み、経済的である。更に本発明の熱板写記録用媒体においては、熱安定性、変形の恐れが少なく、使用耐久性に富むものであり連続使用に適している。

ここで、本発明熱板写記録用媒体の適用例を図面に基づいて説明する。

第4図は熱情報源として放射線を利用して転写記録を行なう方法を示しており、先に例示した如き熱板写記録用媒体と被転写媒体としての紙、書留フィルム等とを重ね合わせ、熱板写記録用媒体の裏面から熱情報源を印加し、情報源に対応する箇所感熱感熱形インクの転写をなす方法を略図断面図により示した。なお、熱情報源を与える手

段又は機器としては、キセノン、ヘリウム等を例とするフラッシュ光源、タンダスタンプ等を例とする紫外線ランプ、炭化ガス、半導体、アルゴン等を例とするレーザー光源等を挙げることができるが、中でも望ましくは熱パターン以外の場所に“かぶり”を生じさせぬうちに、所定のパターンにのみ高強度の放射線を照射出来るものが良い。その点でフラッシュ光源、レーザー光源等が望ましいものと言える。

又、熱板写記録用媒体と被転写媒体とは図示の如く多少の間隙を置いて配されてもよく、密着した状態で配されてもよい。

第5図により又別の方法を示す。斯かる方法においては、先ず、電線部より発生した信号が図示していない電気回路を経て熱ヘッドに伝わり、ここで熱ヘッドに含まれる抵抗体が発熱し、そ

の接触箇所にある感熱感熱形インクが被転写媒体の場合と同様に被転写媒体に上に転写される。本図示例において使用する熱ヘッドとしては、厚膜法により抵抗体を構成するいわゆる厚膜ヘッド、スクリーン印刷等の方法により抵抗体を構成する厚膜ヘッド、半導体作成手法により抵抗体を構成する半導体ヘッド等がある。

本発明においては、感熱感熱形インクが転写により一部欠如した熱板写記録用媒体の空孔に再度、酸化或いは溶融状態にある感熱感熱形インクを充填して再配したものを再度使用或いは連続使用に供することもできる。

更に実施例を挙げて本発明を詳述する。

実施例-1

直径30μの円型空孔を100μピッチでスクリーン状にエッチングされたステンレスメッシュを用

い、これに下記組成の分級炭を混合し乾燥して転写用炭体を作成した。

アシフトアクリリブラフタ	0.8 30g
アクリル樹脂 (東亜合成社製SKY-1, 30%メチル溶媒)	 10g
メチルエタノール	 60g

この炭体と上質紙を重ねて第4図のようにベタ
ーン状にヤセノンフラッシュ光を、同機科学社製
のゼノフラッシュ-130を用いて1/1000秒間照
射した所、光の当たった所のメッシュ孔中のインク
が紙の方へ転写され、その部分のメッシュ孔は空
となつた。紙に転写されたインクはそのままで紙
の面に固着されベタパターンを形成した。

実施例-3

径30μ、100μピッチのステンレスプレス金
製のメッシュ空孔に下記組成の炭料とバインダー
の溶液をうめこみ、乾燥して転写用炭体を作成し

この転写用炭体と紙を重ねて転写用炭体側から
スポット径30μ、出力100wVのYAGレーザーを
10mm/secのスピードで走査した所、レーザーの
照射された所の空孔中のカーボンブラフタは、紙
に転写され固着された。一方、紙に転写用炭体はレ
ーザー光の当たった所は空孔となつていた。この固
着した空孔を有する転写用炭体と、新たに用意し
た紙とを重ねて転写用炭体側から孔板印刷用イン
クを、ローラー等で全面に付与した所、固着した
空孔となつた所から紙にインクがしみ込んで孔板
印刷がなされた。

実施例-4

実施例-3と同様にして作成された転写用炭体
をエンドレスベタ状に加工し、アルゴンイオン
レーザー（出力300wV、スポット径30μ）で走査
し、紙へ炭料を転写した。次いで、実施例-3と

た。

カーボンブラフタ 30g
カルナバワックス/蜜ロウ 8/3g
トリエシ 30g

この転写用炭体と上質紙を重ねて、第5図のよ
うに転写用炭体側からスポット径30μ、出力500
wVのアルゴンイオンレーザーを1/1000秒間
照射した所、転写用炭体の空孔中にうめこまれて
いたカーボンとワックスの混合物が紙の方に転写
され固着された。

実施例-5

実施例-1と同様にメッシュの空孔中に下記分
級炭をうめこみ乾燥して、転写用炭体を得た。

カーボンブラフタ 30g
ポリビニルブタール(10%) 30g
エタノール 30g

同様の炭料とバインダーからなる炭料溶液を転写
用炭体に付与して、転写後の空孔となつた部分に
再度炭料をうめこみ、乾燥して元の転写用炭体に
再生し、また転写記録を行なう工程をくり返して
記録を連続的に行なつた所、良好な結果を得た。

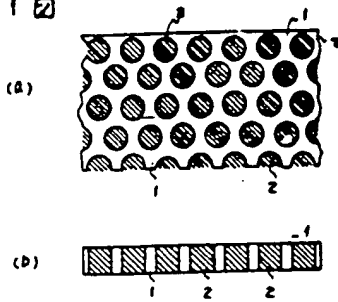
4. 図面の簡単な説明

第1図(a)及び(b)、第2図、第3図は夫々本発明
熱転写記録用炭体の構成例を説明する略式図であ
り、第4図及び第5図は本発明熱転写記録用炭体
の使用例を説明するための略式断面図である。図
において、

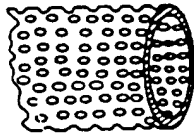
- 1.....基板、2.....貫通空孔、3
.....熱転写記録用炭体、4.....紙転写炭体、
5.....転写用炭体、6.....転写用炭体、

出願人 ヤマハ株式会社
代理人 丸 島 誠

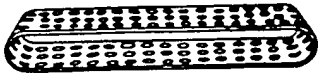
第1図



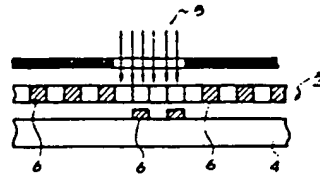
第2図



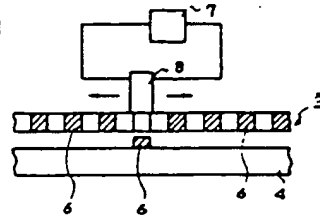
第3図



第4図



第5図



**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☐ BLACK BORDERS
- ☐ IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- ☒ FADED TEXT OR DRAWING
- ☒ BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING
- ☐ SKEWED/SLANTED IMAGES
- ☐ COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS
- ☐ GRAY SCALE DOCUMENTS
- ☐ LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT
- ☐ REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY
- ☐ OTHER: _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.